

能ハズ敵ト戦闘スル軍隊退セラレタルトキ其退却方向ヲ選擇スルヲ得ズ敵兵ノ追撃ヲ受クル軍隊ハ隊形ヲ變ズルコト無ク正面ト直角ニ退却シ而シテ其收容セラレザル間ハ再ビ敵ニ抵抗スルヲ得ズト云フ條項ナリ

抑々隨意退却ニ非ラザル退却ハ收容隊ニ由ツテ收容セラレザレバ爲ス能ハズ而シテ此收容隊及ビ收容陣地ニ關シテハ退却中ノ尤モ研究スベキ要件トス

夫レ收容隊ナルモノハ戰闘ノ始メヨリ之レニ充ツル兵力ヲ分離シ置クベキ者ニ非ラズ凡ソ決戦ヲ爲スベキ任務ヲ有スル軍隊ニシテ其全カラ擧ゲテ戰闘實行ニ用ヒズ其一部ヲ豫備トシ退却ヲ掩護セシメントスルガ如キハ誤謬タルヲ免レズ故ニ全力ヲ擧ゲテ戰闘實行ニ使用センカ一旦退却セントスルモ最早收容ニ任スベキ部隊ナシ此ニ於テ

カ總テ指揮官ナル者ハ決戦ヲナスベキヤ或ハ退却ヲ實行スベキヤハ適當ナル時機ニ於テ速ニ決心スルヲ要ス即ハチ退却セント欲セバ尙ホ未ダ縱長ノ梯隊ヲ有スルキニ於テ之ヲシテ收容ニ任ジ以テ退却ノ部署ヲ定ムルカ敵ノ甚ダシク接近セザル時或ハ後方梯隊ヲ以テ一舉攻勢的運動ヲ以テ敵ニ打撃ヲ與ヘ一時戰術上ノ勝利ヲ以テ敵ヲ躊躇セシメ此機ニ於テ速ヤホニ部隊ヲ整頓シテ收容隊ヲ設ケ退却ヲ部署スルカ(敵ノ接迫甚ダシキ時)ニアリ是等ノ決心ト時機ノ判斷トヲ適當ニナサハレバ遂ニ前述第四ノ場合ニ於ケル如ク戰闘各部隊各個ノ敗退ニ陥ルベシ

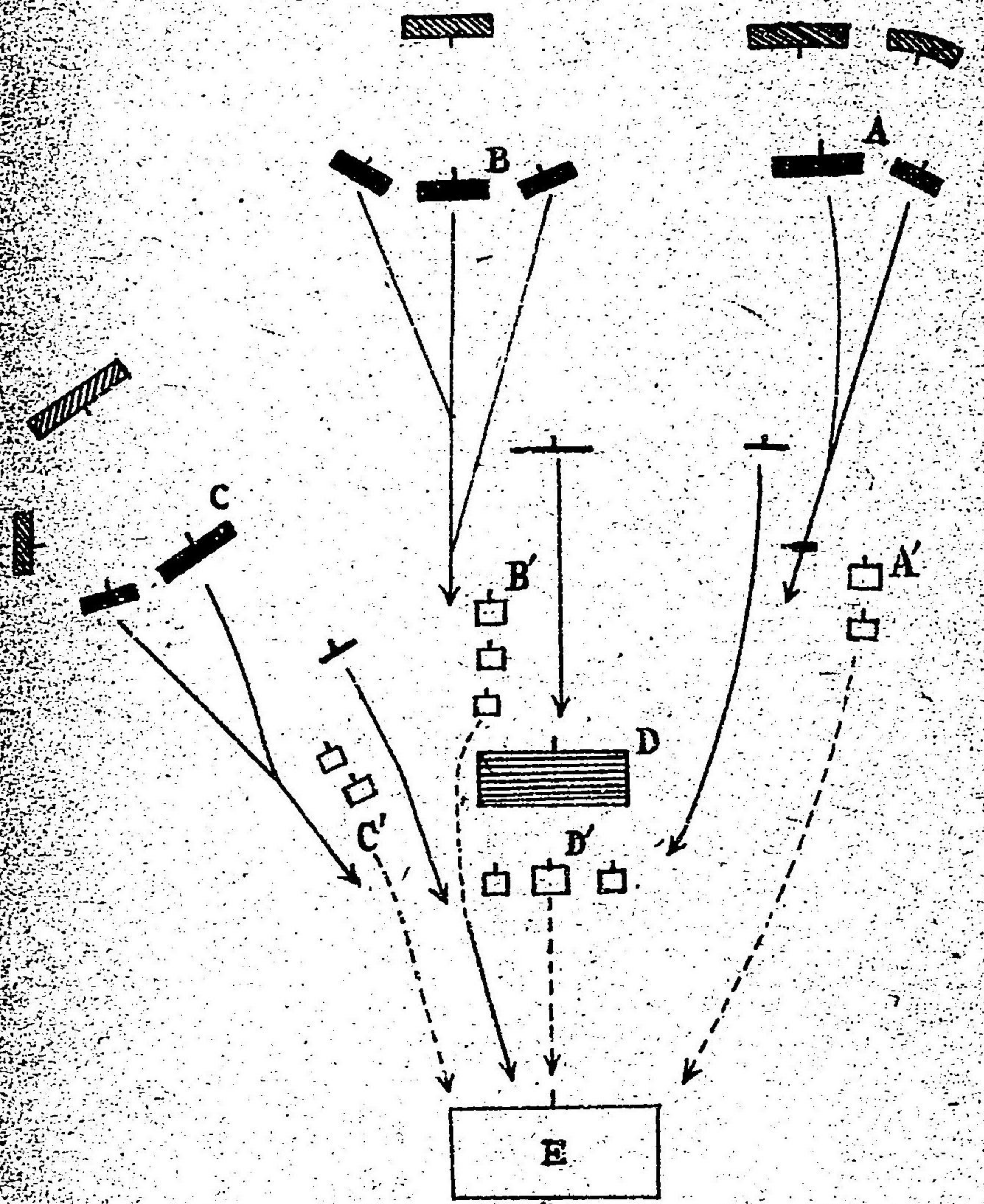
退却ニ當ツテ收容陣地ヲ撰ブニ二様アリ曰ク戰場直接ノ收容陣地曰ク收容隊ヲ收容スル收容陣地是レナリ(第二ノ者ハ或ル論者之レヲ後衛陣地ト云フモノアレハ矢張收容陣地ニ外ナラズ)即ハチ大部隊ノ戰

小部隊ト大
部隊トノ收
容ニ異

戰場直接收
容

圖ニ於テハ各部隊各方面ニ於テ戦線ヲ形テ造リアリ此各方面ヲ收容
スルニハ亦々各方面ニ各一ツノ收容隊ヲ置キ直接收容ニ任ジ此各方
面ノ各收容隊ヲ又更ニ一所ニ收容シ始メテ退却部署ヲ整然タラシメ
得

抑々小部隊ニ於テハ戦闘ノ局面ハ一方面ニ於テ限ラレ數方面ニ對ス
ル能ハズ從ツテ此一方面ノ交戦部隊ヲ收容スルノミニンテ足ルト雖
モ大部隊ニ於テハ否ラズ交戦區域ハ數多ノ地區ニ分レ其戦闘ノ局面
ハ種々ノ方向ニ發生ス之ガ爲メ退却ニ當リ此各方面ニ於ケル交戦部
隊ヲ收容セントスルニハ到底一ツノ收容隊ヲ以テスル能ハズ是レ各
戦闘方面毎ニ收容隊ヲ設ケテ之レヲ收容セザルベカラザル所以ナリ
此各方面ニ於ケル各收容隊ハ交戦部隊ヲ直接ニ戰場ヨリ收容シ敵ト
離隔セシムルナリ所謂戰場直接收容隊ナリ交戦部隊ハ此戰場直接收



- 敵
- 交戦部隊
- 戰場外收容隊
- 退却部隊集合

容隊ニ由テ收容セラレ此收容隊ノ後方ニテ集合スルナラン然レドモ敵ガ急追スルトキハ各方面ニ於ケル收容隊ハ更ニ他隊ニ由テ收容セラレザレバ敵ト離隔スル能ハザルニ至ルノミナラズ各方面ニ於ケル各收容隊ヲ集結スル爲メ更ニ一收容隊ヲ以テ之レヲ收容セシムルノ必要アリ是レ所謂戰場外ノ收容ナリ

即チ大部隊ノ收容ハ恰モ網ノ細線ヲ收容シテ其大綱ヲ曳キ漸次集攬スル如キ有様ナリ左圖ニ示ス如クA B C三方面ニ於ケル交戦部隊ハ各戰場直接收容隊ニ收容セラレテA' B' C'ニ於テ各一先ヅ兵力ヲ集結シ而シテ又各戰場收容隊ハDノ背後ニ收容セラレテD'ニ於テ兵力ヲ集結シ遂ニ各部隊ハEナル地點ニ於テ全ク集團シ隊伍ヲ整へDヲ後衛トシテ整々退却ニ就クナリ

指揮官自身
ノ退却ニ關
スル注意

退却ニ當ツテ指揮官ガ諸隊ニ先ツテ陣地偵察ノ爲メニ背進スルト云
フ意見者モアレトモ是ハ甚ダ志氣上宜シカラズ陣地偵察ノ如キハ部
下ノ將校ニ命ジテ可ナリ或ハ敵ト未ダ觸接セザル前ニ於ケル隨意退
却ニ在ツテハ兎モ角モナレトモ一旦敵ト接シタル後ノ退却ニ在ツテ
ハ指揮官ハ最後マデ指揮部署ヲナシ而シテ背進ニ就クヲ要ス殊ニ退
却ニ於ケル時ノ部署ハ指揮官其人ノ尤モ能力ヲ發揚スル時ナレバナ
リ決シテ自己ハ先キニ背進シ肝要ノ退却部署ニ關シテハ次級指揮官
ニ委スル如キコトヲナスベカラズ
歩兵操典ニ示ス所ノ

退却戰鬪ヲ指揮スルノ要ハ行軍隊形ヲ整へ距離ヲ存シテ後衛ヲ備
フルニ在リ之レガ爲メ指揮官ハ明瞭ニ行進目標ヲ指示シ次ギニ收
容スベキ部隊ヲ指示シ之レニ收容スベキ地點ヲ命ズ然ル後指揮官

ハ戰鬪地ヲ去リ適宜ノ地ニ在ツテ退却スル軍隊ヲ待チ更ニ命令ヲ
下スモノトス

ト云ヘル意味ヲ誤解スベカラズ是レ敵ト密接スル場合ニ於テ適當ノ
退却隊形ヲ整フル能ハズ取り敢ヘズ各部隊ニ退却ノ行進目標丈ケヲ
示シ退却スベキ方向ヲ知ラシメテ各個適宜ニ機ニ乗ジ其方向ニ退却
セシメ暫時敵ノ接觸ヲ免レ此間ニ整然退却順序ヲ立ツル爲メ指揮官
ハ其退却軍隊ノ退却シ來ル途中ノ集合點ニ於テ之レヲ待チ以テ部署
命令ヲ與フルナリ必竟退却部署ヲ爲スノ手段ナリ指揮官ヲシテ速ニ
戰場ヲ去レト云フノ意ニ非ラズ

九月五日午前七時四十分ニ於ケル師團長ノ處置ハ即チ前陳大部隊ノ

退却方法ノ原則ニ從ヒ戰場直接收容隊ハ三方面ニ於テセサルベカラズ善波峠方面北金目村方面及ビ大畑村方面是レナリ此三方面ノ退却ニ當リ善波峠大畑村兩方面ハ敵ガ直チニ我退路ヲ脅威スベキ進路ナルヲ以テ北金目村方面ノ我部隊ガ字堀及ヒ丸島村附近マデ退却スル間頑強ニ敵ヲ拒支シ且ツ大畑村附近ノ我部隊ハ北金目方面ヲ追撃スル敵ニ對シ其側面ヲ制スルヲ要ス乃ハチ北金目村附近ノ我部隊ハ先ヅ戰場直接收容隊ヲ字堀附近ニ派遣シテ收容ニ任ゼシメ大畑村善波峠方面ハ東大竹村善波村附近ニ各收容隊ヲ派遣シ北金目方面ノ我部隊ガ丸島村北方附近ニ退却シタル時期ヨリ各退却ヲ始ム而シテ此等ノ各收容隊ハ更ニ伊勢原附近ニ於テ右縦隊ニ收容セラレ此掩護ニ由テ師團ハ愛名村温水村附近ニ退却ス而シテ右縦隊ハ後衛トナリテ漸次退却ス

戰場直接ノ收容陣地ハ戰線ヨリ砲兵射距離内ニアリテ戰線ニ切迫スル敵ニ砲火ヲ以テ對向スルヲ要スト雖戰場外ノ收容ニ在ツテハ敵ノ追撃ノ景況ニモ關スレテ強チ戰線ニ直接砲彈ヲ送り得ベキ距離ニアルヲ要セズ各方向ノ部隊ヲ一纏メニ集攬結合スルニ便ナル如ク陣地ヲ占領ス伊勢原附近ハ善波村字堀丸島村東大竹村等ノ各方面ヨリ退却シタル部隊及ビ各收容隊ヲ其後方ニ集結スルニ適當スル者ナル如シ凡ソ敵ト近ク相接シタル交戰部隊ヲ退却セシムルニハ既ニ前ニモ概陳シタル如ク戰場ニ於テハ到底退却ノ方向及ビ隊伍ヲ整ヘ得ベキ者ニアラズ唯ダ交戰部隊ニ概略ノ目標ヲ示シ各交戰部隊ハ戰線ト直角ニ小單位毎ニ殆ンド各個ニ退却シ收容隊ノ後方ニ於テ始メテ隊伍ヲ整ヘ得ベキモノトス故ニ北金目村大畑村方向等何レモ戰場直接收容

隊ノ後方ニ退却スルマデハ殆ンド散亂ノ有様ヲ以テ退却シ來ルナラ
ン隊長ハ此收容隊ノ掩護ニ由テ始メテ隊伍ヲ整ヘ更ニ伊勢原ニ向ヒ
退却シ同地ニ至リ再ビ掩護ヲ受ケテ完全ニ整頓スルヲ得ベシ
抑々退却中ノ尤モ困難ナル者ハ右ノ如キ場合ナリ若シ未ダ敵ト肉接
セザルニ先チ隨意退却ヲ行フ如キハ第一線部隊ヲ其儘暫時停止セシ
メテ本隊ノ退却ヲ掩護シ後チ後衛トナリテ退却セシムレバ可ナリト
雖ドモ否ラズシテ敵ノ觸接近ク且ツ急ナル丈クゾレ丈ク退却ノ區畧
ハ紛雜困難トナリ指揮官ノ敏腕果斷ヲ要スルコト益切ナリ

以上ノ要旨ニ從ヒ十月五日午前七時四十分ニ下スベ
キ師團命令ハ左ノ如クナルベシ
此場合ニ於ケル命令ハ迅速尤モ簡單ナルヲ要スルモノトス

左ノ命令ハ副官ヲシテ口達セシム

(第一聯隊長ヘ口達)

第一師團命令

九月五日午前七時四十分
北金目神社ニ於テ

- 一、師團ハ愛名村附近ニ背進セントス
- 二、大佐某第一聯隊長ハ部下第三大隊砲兵第六中隊工兵第三中隊ヲ
以テ即時字堀附近ニヨリ收容陣地ヲ占領スベシ
- 三、余ハ後刻貴官ノ許ニ至ル

中將某

(第三聯隊第三大隊長ヘ口達)

退却
時
ノ
各
別
命
令

第一師團命令全上

- 一、善波峠方面ニハ敵兵約一聯隊ノ攻撃ヲ受ケアリ
- 二、師團ハ愛名村附近ニ背進セントス
- 三、貴官ハ部下大隊ヲ以テ即時善波峠ニ急進シ同地附近ニアル第二聯隊長ノ指揮ニ屬スベシ
- 四、余ハ落橋村ヲ經テ伊勢原ニ向ヒ背進ス

中將某

左ノ訓令及ビ命令ハ筆記シテ至急ヲ以テ傳騎ニ由テ送達セララル

(第二聯隊長)

第一師團訓令全上

- 一、師團ハ愛名村附近ニ背進セントス
- 二、貴官ノ増援トシテ第一聯隊第三大隊ヲ只今派遣セリ
貴官ハ成ルベク敵ヲ永ク隘路内ニ扼止シ少クモ午前八時半以前ニ於テ敵ヲ坪ノ内村以東ニ進出セシメズ以テ師團ノ側面ヲ安全ナラシムベシ
- 三、少將某ノ帥ユル右縦隊ハ午前九時迄ニハ伊勢原ニ到着スル豫定ナリ
貴官ハ坪ノ内村附近ニ退却後ハ同隊ノ援助ヲ受クルヲ得ベシ
- 四、諸報告ハ伊勢原ニ向ヒ發送スベシ

中將某

(第二聯隊第二大隊長へ)

第一師團命令 九月五日午前七時五十分
北金目神祠ニ於テ

- 一、師團ハ愛名村附近ニ背進セントス
- 二、某少將ノ帥ユル右縦隊ハ午前九時伊勢原ニ到着スル筈ナリ
- 三、貴官ハ師團ノ最後尾ガ丸島村及ビ宇堀以北ニ背進スル時期マデ現陣地ヲ固守シ然ル後伊勢原ニ向ツテ背進スベシ
- 四、貴官ノ背進ニ當リテハ伊勢原附近ニ到着スル右縦隊ノ援助ヲ受クルコトヲ得ベシ
- 五、諸報告ハ伊勢原ニ向ヒ發送スベシ

中將 某

騎兵聯隊長
第一師團
第一旅團
第二旅團
第三旅團
第四旅團
第五旅團
第六旅團
第七旅團
第八旅團
第九旅團
第十旅團
第十一旅團
第十二旅團
第十三旅團
第十四旅團
第十五旅團
第十六旅團
第十七旅團
第十八旅團
第十九旅團
第二十旅團
第二十一旅團
第二十二旅團
第二十三旅團
第二十四旅團
第二十五旅團
第二十六旅團
第二十七旅團
第二十八旅團
第二十九旅團
第三十旅團
第三十一旅團
第三十二旅團
第三十三旅團
第三十四旅團
第三十五旅團
第三十六旅團
第三十七旅團
第三十八旅團
第三十九旅團
第四十旅團
第四十一旅團
第四十二旅團
第四十三旅團
第四十四旅團
第四十五旅團
第四十六旅團
第四十七旅團
第四十八旅團
第四十九旅團
第五十旅團
第五十一旅團
第五十二旅團
第五十三旅團
第五十四旅團
第五十五旅團
第五十六旅團
第五十七旅團
第五十八旅團
第五十九旅團
第六十旅團
第六十一旅團
第六十二旅團
第六十三旅團
第六十四旅團
第六十五旅團
第六十六旅團
第六十七旅團
第六十八旅團
第六十九旅團
第七十旅團
第七十一旅團
第七十二旅團
第七十三旅團
第七十四旅團
第七十五旅團
第七十六旅團
第七十七旅團
第七十八旅團
第七十九旅團
第八十旅團
第八十一旅團
第八十二旅團
第八十三旅團
第八十四旅團
第八十五旅團
第八十六旅團
第八十七旅團
第八十八旅團
第八十九旅團
第九十旅團
第九十一旅團
第九十二旅團
第九十三旅團
第九十四旅團
第九十五旅團
第九十六旅團
第九十七旅團
第九十八旅團
第九十九旅團
第一百旅團

(騎兵聯隊長へ)

第一師團命令 九月五日午前七時五十分
北金目神祠ニ於テ

- 一、師團ハ某少將ノ帥ユル右縦隊ト合シ東ニ敵ヲ拒支スル目的ヲ以テ愛名附近ニ背進セントス
- 二、貴官ハ師團ノ左側ヲ警戒シ已ムヲ得ザルルハ愛甲方向ニ退却スベシ
- 三、諸報告ハ伊勢原ニ向ヒ發送スベシ

中將 某

左ノ訓令ハ參謀ヲシテ口達セシム其理由ハ第二旅團長ト互ニ情況ヲ

審ニスル爲メナリ

此參謀ハ訓令傳達後ハ伊勢原附近ニ在ッテ師團長ノ到ルヲ待ッ而シテ該時マデ諸方ヨリ到着スル報告ヲ受領スルニ任ズ

(右縦隊長へ)

第一師團訓令

九月五日午前七時五十分
北金目神祠ニ於テ

- 一、師團ハ早朝來北金目村及ビ大畑村附近ノ陣地ニ於テ劇烈ナル戰鬪中ナリ又善波峠守備ニ任ゼル支隊ハ約歩兵一聯隊ノ敵ニ壓迫セラレナリ
- 二、師團ハ即時愛名村附近ノ陣地ニ退却シ貴官ト合シテ更ニ敵ヲ拒支セントス
- 三、貴官ハ伊勢原附近ノ陣地ヲ占領シ師團ノ退却ヲ收容スルヲ要ス

- 殊ニ一部隊ヲ速ニ坪ノ内村附近ニ差遣シ善波峠方面ヨリ退却スル部隊ヲ收容シ且ツ之レト協力セシメ以テ師團ノ右側背ヲ安全ナラシムルヲ要ス又大畑村附近部隊ノ退却ヲ容易ナラシムル爲メ一部隊ヲ以テ東大竹村附近ヲ占領スルハ尤モ緊要ナリ
- 四、余ハ後刻貴官ノ許ニ到ル

中將 某

右縦隊長へ與ッル訓令ヲ送達スル參謀ニ傳騎三名ヲ附シ衛生隊ニハ途上ニ於テ大行李ニハ伊勢原到着後左ノ命令ヲ傳ヘシム

(衛生隊へ)

- 一、師團ハ愛名村附近ニ背進セントス
二、衛生隊ハ即時愛名村ニ退却スヘシ已ムヲ得ザレバ所要ノ衛生員ヲ殘シ傷者ヲ赤十字條約ノ保護ニ委スベシ
三、諸報告ハ伊勢原ニ向ヒ發送スベシ

中將某

(大行李へ)

- 一、同前
二、大行李ハ三田村西南方字新宿ニ至リ停止シアルベシ
三、諸報告ハ伊勢原ニ向ヒ發送スベシ

中將某

師團長ハ右ノ如キ要旨ヲ參謀ニ命ゼバ參謀ハ夫レノ命令ヲ調製シ各部隊長ニ傳達ス而シテ北金目附近ニアル交戦部隊ニハ適當ノ時機到ルヲ待ツテ命令ヲ傳フ之レガ爲メニハ北金目神祠ノ高地ヨリ周到ニ敵狀ヲ觀察シ且ツ字堀附近ニ派遣シタル收容隊ノ該地ニ到着セシヤ否ヤヲ觀察ス收容隊同地ニ着スルヲ見レバ直チニ副官參謀ヲ馳セテ左ノ命令ヲ各部隊長ニ傳フ

(砲兵隊長へ)

- 一、砲兵ハ即時丸島村北方ニ向ヒ背進スベシ
二、字堀附近ニ派遣シタル收容隊ハ諸隊ノ背進ヲ收容スル筈ナリ

三、余ハ丸島村ニ至ル

中將 某

(歩兵第一旅團長及ヒ第三聯隊長ヘ)

一、諸隊ハ砲兵ノ陣地ヲ徹スルヲ待チ直チニ丸島村北方ニ向ヒ背進スベシ

二、同前

三、同前

中將 某

右ノ命令ヲ傳ヘ置キ師團長ハ幕僚ト共ニ先ヅ字堀ニ至リ諸隊退却ノ狀ヲ視察シ退却部隊續々丸島村北方ニ集合スルニ至レバ副官ヲシテ左ノ命令ヲ傳ヘシム

(第一旅團長ヘ)

一、師團ハ伊勢原附近ニ到着スル右縱隊ト合シ更ニ敵ヲ拒支スル目的ヲ以テ愛名村附近ノ陣地ヲ占領セントス

二、歩兵第一旅團長少將某ハ歩兵砲兵ノ諸隊ヲ帥ヒ伊勢原ニ至ルベシ

三、伊勢原附近ニ到着セル右縱隊ハ同地附近ニ陣地ヲ占メ師團ノ退却ヲ收容スル筈ナリ

四、余ハ伊勢原ニ至ル

中將 某

(字堀收容隊長へ)

- 一、貴官ハ敵ヲ拒支シツ、伊勢原村ニ向ヒ退却スベシ
- 二、伊勢原附近ニ到着セル右縦隊ハ同地附近ニ於テ貴官ヲ收容スル
筈ナリ
- 三、余ハ伊勢原ニ至ル

中將 某

右ノ如ク命令シ置キ師團長ハ伊勢原ニ急行シ第二旅團長ト面談シ互

ニ意旨ヲ通ジ而シテ師團ノ諸隊伊勢原ニ退却シ來レバ必要ノ命令ヲ
與ヘ行軍縦隊ヲ編成シ愛名村ニ退却セシメ又第二旅團長ニハ後衛ト
ナリテ愛名村ニ退却スベキコトヲ命ジ師團長ハ愛名村ニ至ル

九月五日午前八時頃ヨリ正午十二時ニ至ル情況

師團ガ前陳命令ノ如ク退却ノ途ニ就クヤ南金目附近ヨリ敵ハ猛烈ニ
追撃ヲ施行シ北金目附近ノ我部隊ハ殆ンド散亂ノ狀ヲ以テ退却シ辛
フシテ字堀附近ノ收容隊ニ掩護サレ丸島村北方ニ於テ初メテ稍々隊
伍ヲ整頓シ續テ退却ヲ施行ス
善波峠方面ニ於テハ敵ノ攻撃猛烈ニシテ爲メニ増援隊トシテ派遣セ
ラレタル第三聯隊第三大隊ノ到着ニ先チ既ニ漸次撃退セラレ善波村

九月五日午
八時頃ヨ
リ正午ニ至
ル情況
金目方面

善波峠方面

大竹方面

隘路口ニ於テ再ビ抵抗中第三聯隊第三大隊ハ長昌院北方高地ヨリ敵ノ側面ヲ脅威シ爰ニ敵ヲ一時躊躇セシメツ、アル際伊勢原ヨリ前進セル増加隊坪ノ内村西方ニ到着シ大ニ我部隊ハ形勢ヲ一變シ敵ヲ隘路口ニ壓迫シタリシガ北金目方面ノ追撃隊漸次前進セシ爲メ遂ニ側背ヲ脅威セラル、ニ至リ伊勢原ニ向ヒ退却ス
大畑村方向ニ於テハ北金目ヨリ退却スル我部隊ヲ追撃セントスル敵ニ對シ砲火ヲ以テ之レヲ妨害シタリシガ敵兵飯島村ヨリ矢崎村方向ニ迫マルニ及ビ收容隊ヲ馬渡村附近ニ備ヘ東大竹村方向ニ退却ス同地ニハ伊勢原ヨリ前進セル一部隊ノ援助ヲ受ケテ安全ニ伊勢原附近ニ退却集合スルヲ得タリ
伊勢原附近ニ到着セル右縱隊ハ前陳ノ如ク各一部ヲ坪ノ内村及ビ東大竹村附近ニ派遣シ主力ハ伊勢原ノ高地ヲ占領シ各方面ヨリ退却シ

伊勢原方面

來ル部隊ヲ收容セリ

敵ハ三方面ヨリ急迫セシガ右縱隊ガ伊勢原附近ニ陣地ヲ占領セル爲メ神戸村ヨリ丸島村西海地村北方ニ亘ル線ニ停止シ之レヨリ砲火ヲ以テ互ニ相應答スルノミニシテ敢テ急迫セズ
師團ハ右縱隊ノ援護ニ由テ無事伊勢原北方附近ニ集合シ行軍縱隊ヲ編成シ右縱隊ヲ更ニ後衛トシテ退却スルヲ得タリ
師團ハ愛名村附近ヨリ舟子村西北方ニ亘ル線ニ於テ持久防禦ヲナサシ爲メ堅固ニ陣地ヲ占領シ敵ヲ待ツ

九月五日午後ニ於ケル情況

九月五日午
敵ハ午後三時頃ヨリ漸次岡津古久北方ヨリ愛甲村ニ亘ル線ニ展開シ
彼我ノ間ニ戦闘ハ起レリ然レトモ其交戦勢狀ニシテ遂ニ日暮ニ至リ

已ムヲ得ズ戰闘ハ自然ニ中止ノ姿トナレリ
 即ハチ師團ハ本夜戰闘展開ノ儘夜ヲ徹セザルベカラズ所謂戰闘前哨
 ヲ用ユル場合ナリ
 抑モ前哨線ヲ防禦線ノ前方ニ出シテ配布スルト云フハ一般普通ノ場
 合ニシテ目下ノ場合ニ於テハ特別ニシテ之レヲ適用シ能ハズ又小哨
 前哨中隊ヲ整頓區別シテ配布スルモノモ亦タ此時機ニ適當セズ即ハ
 ナ此場合ハ各所ニ於テ戰闘シタル部隊ガ其場所ノ近傍ニ於テ戰闘隊
 形ノ儘小隊若クハ中隊毎ニ多少整頓シ其前方近ク數十歩ノ處ニ歩哨
 ヲ配布シテ各兵ハ皆銃ヲ手ニシ嚴重ニ警戒ス
 今夜ノ給養ハ携帶糧秣ヲ用ユベキナリ何トナレバ敵前近ク各隊ハ展
 開シテ相ヒ對シ且ツ時刻ハ既ニ日没ナリ大行李ハ遠ク隔離シアリ即
 ハチ到着後方ニ於テ炊爨シ糧食ヲ各戰闘線ニ分配スル如キコトヲ爲

ス能ハズ且ツ本日ハ早朝ヨリノ戰闘ノ爲メ兵隊ハ疲勞シ一刻モ早ク
 兵ヲ給養スルノ必要アリ所謂各兵ハ右ニ各自ノ携帶糧秣ヲ握ギリ左
 ニ銃ヲ扼シ敵ヲ睨ランデ餓ヲ凌グノ場合ナリ
 又夜間敵目ヲ遮蔽シテ多少部隊ノ混淆ヲ恢復シ配備ノ連繫ヲ修正ス
 ルノ必要アリ
 是等ノ爲メ師團長ハ取リ敢ズ急務ヲ要スル給養ノ件並ニ部隊ノ整頓
 等ヲ命ジ置キ且ツ後刻命令受領者ヲ出スベキコトヲ命ジ此間ニ宿營
 ニ關スル萬般ノ考案ヲナシ命令受領者ノ集ル頃ニハ我運動モ全ク敵
 ニ見エザル如ク天暮ル、ナラン此ニ於テ宿營命令ヲ下シ各隊ノ連繫
 ヲ恢復シ配備ヲ修正シ宿營ニ就カシム
 乃ハチ師團長ハ午後五時三十分左ノ命令ヲ副官及ビ傳騎ヲシテ各隊
 ニ傳達セシム但シ副官ハ口達ヲ以テシ傳騎ニハ筆記シテ傳達セシム

第一師團命令

九月五日午後五時三十分
愛名村東方高地ニ於テ

- 一 師團ハ戦闘ヲ中止ス
- 二 各隊ハ其位置ニ於テ隊伍ヲ整頓スベシ
- 三 携帶糧秣ヲ用ユベシ
- 四 隊伍ノ整頓終レバ一名ノ將校ヲ愛名村東方高地ニ送レ
余ハ同地ニ在リ

師團長署名

午後六時過ギニハ各隊ノ命令受領者ハ師團長ノ許ニ集リ來ラン此ニ於テ師團長ハ宿營命令ヲ下シ各隊ノ占領區防禦工事并ニ警戒ニ關スル件、彈藥補充ノ件等ヲ精細命令ス

問 師團長ハ明日ノ作戰ニ關シテハ如何ナル考ヘヲ要スルヤ
答 師團長ハ明日飽クマデ前面ノ敵ト持久戦ヲナシ軍ノ進出ヲ待タ
ントス

師團ノ前面ニ於ケル敵ハ優勢ナル如シ明日ハ決戦ヲ挑ムヤモ知レズ然レドモ凡ソ持久戦ノ要領ハ敵ヲ抑止シ時間ノ猶豫ヲ得ルヲ目的トシ敵ヲ殲滅セントスル決戦ノ働作ハ望ム所ニアラズ然ルニ敵ハ我が持久戦ヲナサントスルヲ知ラバ斷然眞面目ノ決戦ヲ挑ムハ常ナリ此時ニ當リテハ地形ノ利ニ由リ歩々防戦シ之レヲ避ケザルベカラズ時トシテハ屢々寡兵ヲ以テ突撃ヲナシ總攻撃ノ感響ヲ與ヘ攻勢ヲ以テ眞面目ノ決戦ヲ爲ス如ク陽動ヲナシ敵ヲ欺騙スルコトアレドモ此動作ハ敵兵神速ニ應戦スルトキハ勢ヒ自然ニ決戦ニ至ルノ已ムヲ得ザルニ至ルコト屢々ナリ然ルトキハ斷然決意シテ猛烈ノ眞攻撃ヲナス

第二篇 決戦
及ビ持久戦
ノ要領

持久戦ノ要領

ハシ此場合ニ於テ若シ之レヲ避ケント欲シ遲疑スルコトアルトキハ全滅ニ歸スルモノナリ
乃ハチ師團ハ明日飽クマデ敵ニ抗抵シ已ムヲ得ザルニ至ラバ歩々ノ防戦ヲ以テ敵ヲ北方ニ誘致シツ、持久戦ヲナサン爲メ之レニ關スル諸計畫ヲ考究スルヲ要ス

師團長ハ軍ノ到着ヲ待ツ爲メ成シ得ル限り堅固ニ陣地ヲ占領スルノ目的ヲ以テ陣地ノ構成ヲナスナラン今防禦陣地ノ築城ニ關スル件若干ヲ説叙セントス

抑モ築城自ラハ功力アル者ニアラズ之ヲ使用スル方法如何ニ由テ始

防禦陣地ノ

築城ニ就キ

第二篇防禦
ノ其二三

メテ効力アルナリ故ニ築城ハ軍隊使用ノ目的ニ適合スル如ク構築スルヲ要ス目的ヲ顧慮セズ徒ラニ工事ヲ爲ス時ハ疲勞ヲ來スノミナラズ築城ノ爲メニ反ツテ有害タルノ患アリ且ツ又無要ノ工事ハ部下ノ不信用ヲ來ス基トナルナリ依テ築城ハ能ク其目的ニ適合シ必要ノ者ノミ之ヲ作ルヲ緊要トス

凡ソ好良ナル陣地ハ左ノ性質ヲ具備セザルベカラズ

第一 陣地ハ敵ノ正面或ハ側面ナルニ論ナク敵ガ必ズ之ヲ攻撃セザルヲ得ザルカ否ラサレバ退却スルカ若クハ其進軍ノ方面ヲ轉

ゼサルヲ得ザルガ如キ要地ナルヲ要ス

第二 陣地ハ容易ニ迂回サレズ又包圍セラレザルヲ要ス

第三 陣地ハ其補給品輸送確實ナルヲ要ス

第四 陣地ノ内部ハ諸隊ノ運用自在ナルヲ要ス

第五 陣地ハ攻勢ニ移轉スルコト容易ナラザルベカラズ

第六 退却線ハ有利ノ方向ニアリテ最モ安全ナルヲ要ス

第七 陣地ノ地形ハ敵ノ攻撃ヲ受クルニ當ツテ我ニ有利ナルヲ要ス
凡ソ諸般ノ陣地ニ於テ以上ノ要件ヲ悉ク充足スル者ハ少ク否ナ殆ソ
ド無シ故ニ是等ノ要件中我作戰ノ目的ニ從ヒ尤モ價值アル者ヲ考ヘ
適宜ニ其必要ノ者ノミヲ取ルナリ其必要ノ者ニシテ若シ欠クルアレ
ハ之レヲ補フヲ要ス此不備ヲ補フハ即チ築城術ナリ然シ工事ハ成ル
ベク避ケ唯ダ必要已ムル得ザル所ニノミ工事ヲ施ス如ク設計セザル
ベカラズ

築城術ハ多クノ場合ニ於テ防者ニ應用サル、コト多キヲ以テ先ヅ防
禦ニ關ルル築城ヨリ述ベントス

方今ノ防禦ハ或ル特別ノ目的ヲ有スル者ノ外ハ敵ヲ拒支スルノミニ

ヲハ効力アリト云フベカラズ敵ト戦ツテ勝チヲ得タルヲ以テ充分効
力アリト云フナリ換言スレバ專守防禦ハ戦闘ノ勝利ヲ全スル能ハズ
攻勢防禦ニ由テ始メテ奏効ス敵ニ勝ツト云フコトハ攻勢ヲ取ルヨリ
外ニ手段ナシ故ニ戰畧上ノ防禦ハ之レヲナスモ戰術上ノ防禦ヲセザ
ルヲ今日ノ原則トス故ニ防禦陣地ヲ占領スルモ專守防禦ノミヲ爲ス
ハ不可ナルコトヲ銘心スベシ

防禦陣地ハ留ツテ敵ヲ待ツニ便ナルノミナラズ進デ敵ヲ攻撃スルニ
便ナルヲ要ス之レニ由テ陣地ハ通常ニツノ部分ニ分タルナリ即チ一
ツハ堅固ニ守ルベキ防禦地帯ニシテ一ツハ攻勢ニ轉ズル攻撃地帯ナ
リ此防禦地帯ハ成ルベク寡少ノ兵ヲ以テ堅固ニ守リ得テ以テ此ニ節
約シタル兵ヲ以テ攻撃地帯ニ動作スベキ兵ヲ増スヲ必要トス又攻勢
地帯ハ防禦地帯ノ射撃下ニアラシムルヲ可トス

防禦一般ノ要求ハ次ノ如シ
 前地ハ射撃ノ効力ヲ充分發揚スルヲ要ス即チ開豁ニシテ地勢緩斜面
 ヲ以テ前方ニ降下シ又我攻勢動作ヲ妨ゲザルヲ可トス即チ水田河川
 等ノ障礙物ナク側面モ亦開豁ニシテ遠ク我射撃ニ由テ制シ得ルヲ要
 ス但シ持久防禦ノ爲ニハ側面ハ歩行シ難キ地ナルヲ可トス
 陣地中正面ノ廣サハ兵員ノ多寡ニ適應シ又掩蔽物アリテ且ツ防禦ノ
 支撐點アルヲ要ス此支撐點ハ必ラズシモ防禦ニ便ナル地物ノミヲ云
 シニ非ラズ良好ナル砲兵陣地アレバ亦以テ支撐點アリト云フヲ得ベ
 シ
 内部ハ運動自在ナルヲ要ス故ニ大ナル蔭蔽物アルカ又ハ大ナル障礙
 物ニテ内部ヲ遮斷スルハ大ニ忌ム所ナリ尤モ利益アルハ砲兵ノ前方
 四百乃至六百米ニ歩兵ヲ配置シ得ルヲ可トス

後方ノ地區ハ退却自在ニシテ敵眼ヲ避ケルヲ得又良好ノ收容陣地ア
 ルコトヲ望ムナリ退却線ノ方向ハ正面ト直角ナルヲ可トス若シ斜交
 スル時ハ其翼ニ特ニ堅固ナル支撐點ヲ有スルヲ要ス
 以上述べタル内ニテ常ニ満足シ能ハザル者ハ陣地ノ廣サナリ如何ニ
 良好ノ陣地ト雖ドモ兵員ノ多寡ニ適セザレバ好良ナラズ陣地ハ恰モ
 人ノ衣服ノ如シ廣キニ失スルハ鞆口狹キヨリハ可ナリ其衣服ノ不適
 合ヲ適合スル如クスルハ即チ築城術ニシテ其過大ナルヲ修理スルハ
 爲シ得レトモ過少ナル者ハ能ハザルナリ千八百七十一年パリ攻撃ノ
 時普軍ハ長サ十一吉米ノ河川ヲ僅ニ一師團ニテ守レリ其過廣ノ正面
 ヲ償フ爲メニ氾濫ヲ以テセリ
 防禦陣地ニ工事ヲナスハ甚ダシク兵ヲ疲勞セシムルコト無ク早ク目
 的ヲ達スル如クスルヲ要ス若シ時間ニ餘裕アレバ其施行スベキ作業

砲兵ノ位置

(一)砲兵ノ爲メニ肩増ヲ作ルコト

(二)側面及正面ニ支撐點ヲ作ルコト

(三)新塙ヲ清掃スルコト

砲兵ハ陣地ノ骨格トナル者ニテ其効力ヲ充分ニ發揮スル點ニ置カザルベカラズ且ツ砲兵ハ戰闘ノ始メヨリ戰フ者ナルヲ以テ初ヨリ敵ノ砲兵ニ威力ヲ加クルヲ要ス故ニ陣地ノ配備ヲ定ムルニハ先ヅ第一ニ砲兵ノ位置ヲ決定シ他ノ兵種ノ順慮ハ第二トシテ砲兵ノ位置定マリタル後他兵ハ其骨格ニ肉ヲ付ケル如ク其周圍ニ配置スルナリ砲兵肩増ハ時間ニ餘裕アレバ常ニ作ルヲ可トスオーストリアノ經驗ニヨルニ肩増ニテ防止シタル彈丸⁴⁹ナリト云フ以テ肩増効力ノ一端ヲ知ルニ足ル然レドモ方今無煙火藥採用ノ結果トシテ砲兵ノ位置ヲ秘ス

ル爲メ成ルベク肩増ハ敵目ニ觸レズル如ク構築スルヲ可トス若シ小
溝木ノ背後等ヲ利用シテ構築スレハ尤モ良シ

陣地ノ正面ハ決シテ一直線ト爲シ能ハズ地形ニ由テ自然ニ凸凹ヲ生
シ其突出部ハ弱點ニシテ攻撃點トナルモノナリ故ニ其突出部ノ近傍
ニハ堅固ナル支撐點ヲ設ケテ以テ援護セザルベカラズ之レヲ作ルニ
ハ工事ヲ減ズル爲メ成ルベク地上ニ存スル地區地物ヲ利用スルコト
ヲ勉ムベシ或ル書ニハ正面ノ局地ハ殆ンド土製堡壘ト称シテ同シ効
力ヲ呈シ且ツ作業容易ニシテ其費ス時間モ少シト云フ然レドモ我日
本ニ於テハ一般普通ニ此說ノ如クナル能ハズ蓋シ森林村落等我邦ノ
著々著シク其効力ヲ有セザレバナリフリアルモン曰ク防禦編成ヲ施
シタル局地ハ單ニ歩兵ノモト攻撃ヲ受ケタル時ハ極メテ堅固ナル者
ナリト云フ然レドモ方今無煙火藥採用ノ結果トシテ砲兵ノ位置ヲ秘

準備セラルル時ハ古ヨリ其陥落ヲ早メタリト是レ實ニ至當ノ論ナリ
即チ歐州ニテモ局地ハ堅固ナル支撐點トナラズ故ニ我方ニ堅固ナル
支撐點ヲ得シニハ地形ニ應ジタル集團堡壘ヲ作ルヲ可トス而シテ此
集團堡壘ノ配置ハ全ク地形ニ從フモノニシテ其集團ノ形狀及ビ間隔
ハ之ヲ一定示スル能ハズ唯ダ注意スベキハ集團自ラハ他ノ助ケヲ受
ケズ防禦シ得テ其集團ノ間隔ニハ攻勢運動ヲ妨ゲザル運動地區ヲ存
スルヲ要ス

陣地ノ側面ハ持久防禦ノ目的ナレバ障礙物ニ托スルコト必要ナリ若
シ依托物ナキ時ハ之レヲ作ルヲ要ス其構造方ハ射撃ヲ以テ敵ノ迂回
ヲ妨ゲ豫備隊が其處ニ運動シ得ルマデ防禦シ得ル如クスルヲ要ス
前地ヲ清掃スルコトハ極メテ必要ナリ元來防禦ノ性質ヨリ云ハバ決
戦ハ希望スル所ニ非ラズ尤モ効力アル距離ニテ射撃ヲ以テ敵ヲ苦シ

ムルガ第一ノ要務ナリ故ニ前地ニ在ツテ敵ノ利用シ得ベキ掩蔽物ハ
悉ク之ヲ除去シ又能ク距離ヲ測定シ其測量點ニハ目標ヲ設ケ置クベ
シ此ノ如ク處置ヲ施シ射撃ヲ以テ充分ニ敵ヲ苦シメ敵ノ躊躇スルヲ
見テ豫備隊ハ逆襲ニ轉ズベシ逆襲ノ爲メ攻勢移轉ノ妨害トナル障礙
物ハ之ヲ取除クコト必要ナリ

陣地内部ニテ軍隊ノ運動ヲ妨害シ自由ナラザル時ハ要スル所ノ方向
へ豫備隊ガ運動シ得ル如ク所要ノ工事ヲ施シ又彈藥補給ノ爲メ便宜
ノ交通路ヲ設クベシ之等ノ作業ヲナシ尙ホ時間ニ餘裕アレバ後方ノ
退却路ヲ作り收容陣地ヲ堅固ニス然レドモ收容陣地ノ如キハ常ニ工
事ヲ施ス者ニアラズ唯ダ之レヲ設クルモ砲兵肩牆ノミニテ足レリ其
外ハ無益ニ勞力ヲ費サザルヲ可トス且ツ又概ネ是等ノ時間ヲ有セザ
ルヲ普通トス

我國ニ於テハ其初メ殆ンド佛國ニ倣ヒ築城ヲ研究セシ故今尙ホ防禦
陣地ヲ作ルニ多クノ防禦ノ梯線ヲ設ル習アリ即チ前哨陣地第一第二
陣地後衛陣地ノ四ツヲ作ルト云ヘリ蓋シ此ノ如ク多ク陣地ヲ設クル
モ甚ダシク利益ナカルベシ之レヲ考慮スルニ實際必要ナルヤ否ヤ前
哨陣地ハ本隊ニ戰鬪準備ノ時間ヲ得セシムル爲メニ一時防禦スルニ
過ギス決シテ眞面目ノ戰鬪ヲナス者ニアラズ故ニ前哨ノ兵力モ最少
既テ撰ムナリ此主意ヨリ推論スルモ前哨ノ兵員ハ決シテ有力ノ抵抗
力ヲ備フル者ニアラズ故ニ如何程工事ヲナスモ固ヨリ防禦ノ素力ナ
キモノナレバ直チニ擊破セラレドナリ若シ頑固ニ抵抗セントスル時
ハ反ツテ殲滅ヲ招キ大害ヲ引起スナリ凡ソ後方ノ防禦線ニアル者ガ
敗退セザル應意退却ヲ目録スルモ大ニ不慮ノ成ヲ起ス況ンヤ敗北レ
テ退却スル時ハ其不快ノ感ヲ起スト一層甚ク且ツ又軍隊ノ性情

ヲ云フニ退却ハ其大難ムベキモノナリ故ニ前哨線ニ防禦工事ヲナス
時ハ前哨部隊ヲシテ知ラズ敵ヲ大進軍ノ時機ニ退却スル能ハザルニ
至ラシメ乃チ防禦工事ガ反ツテ前哨兵ヲ敗退セシムル原因トナルナ
リ然ルニ佛人ハ此等ノ弊害ヲ左程弊害ト思惟セズ曰ク此等ノ弊害ハ
前哨線ノミニ生ズルコアラズ凡ソ攻勢ヲ取ラザル諸般ノ場合ニハ常
ニ見ル所ナリト乍然此不快ノ感ヲ起ス程度ノ少キニ從ツテ志氣上ノ
利益ハ大ナリ即チ不快ノ感ヲ起スコト少カラシメンニハ之レガ原因
タル無用ノ工事即チ兵隊ヲ膠着セシムル防禦工事ナキニ知カズ換論
セバ前方ニアル部隊ノ苦戦ヲ見レバ後方ノ隊ガ之レヲ救助セントス
ルハ自然ノ軍隊友情ナリ即チ若シ後方部隊ガ之レヲ救助セント欲シ
誤ツテ防禦線ヲ捨テ、前方ニ出ブルトキハ始メヨリ戦ハシトシテ計
畫ニ於テ豫メ格ナク本意應ニテテザル所ニテ戰フニ望ムナリ即チ之ガ

防禦者ハ大ニ不利益ヲ來スナリ千八百七十年八月十八日サンマ
リイオオシンセームニ於テ佛ノ敗北セシハ此適例ナリ然シ佛人ハ此敗
ハ此地ヲ占領スルニ當テ時期切迫シ材料不足ニシテ(第六軍團ノ砲廠
ハシヤロンニアリシ軍中ニアリシ僅少ノ材料ハサンブリバニ用ヒ
シ故サンマリイニハ充分ノ工事ヲ施シ能ハザリシニ因ルト云フ又指
揮嚴肅號令明瞭ナレバ後方部隊ヨリ前方部隊ヲ助クル爲メ本陣地ヲ
去ルノ憂ヒナシト云ヘリ然シ此等ノ如キ説ヲ無理ニ構成シテ以テ前
哨線ニ工事ヲナスノ必要ハアルマシ元來工事ハ成ルベク少クシテ已
ムヲ得ザル場合ニノミ作ル者ナリ故ニ工事ヲ施シタル所ハ堅固ニ守
ルベキ者ナレバ敢テ堅固ニ守ルヲ要セザル所ニハ初メヨリ工事ヲナ
サズルヲ可トス殊ニ方今ハ防禦ニ決定シテヨリ戰鬪ノ始マレ迄ハ時
間僅少ナリ此僅少ノ時間ニ限リアル器具ヲ以テ作業セザルマカラズ

故ニ前哨陣地ニテ工事ヲ施ス猶豫ハナカルベシ然シ佛人ハ曰ク後方
本陣地ニ完全ナル防禦工事ヲ行ハシムル爲メ前哨陣地ニ防禦工事ヲ
施シ前哨陣地ニ由テ本陣地ニ敵ノ迫ル時間ヲ遅緩セシムルヲ以テ前
哨陣地ノ目的トスト是レ唯ダ理論ノミニシテ實際ハ本陣地ヲ堅固ニ
スル丈ケノ時間ハ得難シ今假ニ一步ヲ讓リ敵ヲシテ本陣地ヲ攻撃セ
シムル時間ノ猶豫ヲ得ル者トスルモ前哨陣地ニ工事ヲナスヨリハ寧
ロ始メヨリ此勞力ヲ本陣地ノ方ヘ捧ゲテ本陣地ニ工事スルガ宜シ乃
チ前哨ニハ工事ヲナサズ天然ノ地物ヲ利用シテ其任務ヲ盡シ得レバ
可ナリ殊ニ我國ノ如キ水田ノ多キ地ニテハ全ク前哨陣地ニハ工事不
用ナリ唯ダ記憶スベキハ以上ノ説論ハ野戰ニ適用スル者ニシテ要塞
戰ハ前哨ニハ適用セラレザルコトナリ

第三防禦線ニ付テハ其主張論者ハ曰ク

凡ソ防禦ニ在ツテハ如何ナル方法ヲ用ユルモ全線敵ノ攻撃ヲ防止
スルハ困難ナル處ニシテ其一部ニ失敗ナキコトハ期シ難シ故ニ敵
線ニ障地ヲ設ケ假令ヒ其一點破ルモ之レニ應ジ得ルノ處置ヲ施
シ以テ一部ノ失敗ヲ全局ニ及ボササルヲ要ス又第二防禦線ハ疲勞
セル敵ヲ迎フルモノナレバ之レガ支據點トナリテ更ニ逆襲ニ轉ジ
得ルノ利益アリト又假令ヒ障地ヲ捨ツルノ已ムヲ得ザルニ至ルモ
全ク敗走セズ之ヲ收容シ得ルノ利益アリ而シテ第二線ハ第一線ニ
火力ヲ及ボス爲メ第一線ノ後方小銃良射距離内ニアルヲ要ス然リ
ト雖トモ亦第二線ニアル兵ハ交戦ノ時期ニ至ルマデハ敵ノ砲彈ヲ
避ケザルベカラズ此ヲ以テ第二線ハ第一線ノ後方六百乃至八百米
ト定ム其構造法モ第一線ニ同ク而シテ攻勢ニ轉ズルノ願慮ト器具
並ニ時間ト少クモ備ヘ置カス工車ヲ設スルモ可ナリト

以上ノ説ハ一理アル如シト雖第二線ヲ以上ノ如ク効アラシメントセ
バ最初ヨリ第二線ニ兵ヲ配置シ第一線ノ戦闘ニ與ツカラシメザル如
クモザレバ効ナシ此クノ如ク初メヨリ第二線ノ兵ヲ殘シ置クハ全ク
分離シテ使用スルモ之ニシテ利益ナキハ勿論ナリ凡ソ勝敗ヲ決スル
時期ニ至レバ最早兵衆ヲ惜ンデ殘シ置クベキモノニアラズ全力ヲ舉
グルモ尙ホ足ラザルノ思フ爲メ時ナリ故ニ指揮官ハ徒ラニ第二線ニ
兵ヲ殘シ置クガ如キ策ハ爲ササル可シ若シ之レヲ爲サバ第二線ハ假
令ヒ之レ有ルモ其ノ用ヲ爲ササルベシ今假リニ一步ヲ譲リ最初ヨリ
第二線ニ守兵ヲ配布スルモノトスルモ防禦ニ尤モ有利ナル如ク撰定
シタル第一線ガ敗ルニ至レバ次等ニ位スル第二線ハ到底保持スル
能ハズ元來戦闘ノ勝利ハ巧ミナル逐次戦ニ非ズシテ單簡ナル一戦ヲ
以テ勝敗ヲ決セントスル者ニ勝テ候言スレバ百戰百勝ナラズ

制スルナリ則チ第三線ヲ設クルヨリハ盡ク全カヲ一舉ニ第一線ニ用
ユルニ如カザルナリ
又後衛陣地ハ所謂收容陣ノ一ツニ外ナラズ前陳師團退却ノ時ニ論ジ
タル如シ此陣地ハ必要ナル者ナレモ實際ニ於テ多クハ防禦工事ヲナ
スノ時間ヲ有セザル者トス

以上説述セシ所ハ一般ノ防禦陣地ニシテ爰ニ注意スベキハ特別目的
ヲ有スル陣地ト同視スベカラズ元來陣地ハ軍隊ノ任務ニ由テ其設備
法異ルナク例ヘハ後衛陣地ノ如キハ若干時間敵ヲ拒支スルニ止マル
者ナル故多クハ工事ヲ施ササルモ可ナリ又例命ヒ之ヲ施スモ大低ハ
砲兵肩楯ト道路ノ阻絶ニ留マル如シ

以下攻撃者ノ施スベキ工事ニ就テ述ベントス

築城術ハ攻撃者ニ於テハ防禦者ニ於ケル如ク著シク其効ヲ顯ハサズ
然レモ又全ク是ヲ不必要ト云フ能ハズ抑モ永久築城ヲ施シタル設堡
陣ヲ攻撃スルニハ攻者モ又臨時築城ヲ以テ正攻法ヲ施ササルベカラ
ズ然シ是レハ永久築城ノ部ニ屬スルヲ以テ此ニハ唯ダ野戦ニ關係ア
ルモノトミテ述ベントス
凡ソ物ハ兩極間ニ格段ナル區別アリテ成ルモノニアラズ其兩極ノ間
ニハ幾許モ階段アリテ以テ一極ヨリ一極ニ至ルモノナリ故ニ築城ニ
在テハ永久築城臨時築城ヲ問ハズ其強固ナル度ニ至ツテハ突然大ナ
ル階級ヲ有スル者ニアラズ臨時築城ニ於テモ其強固ノ度ガ殆ソド永
久築城ニ類スル者アリ故ニ之ヲ攻撃スルニ於テモ野戦ニ於ケル單純
ナル攻撃法ト永久築城ニ對スル攻撃法トノ間ニハ或ハ野戦ニ或ハ攻

城法一類ナル數多ク攻撃法ノ存在セザルヲ得ズ乃チ攻撃スル陣地強
固ノ度ニ應ジ或ハ永久堡壘ニ對スル攻撃法ヲ應用シ或ハ野戰ニ於テ
ル攻撃法ニ類スルアリ故ニ攻撃者ニ在テモ亦チ土工器具ヲ以テ掩體
ヲ設ケ之ニ由テ敵ノ歩砲火ヲ掩護シ劇シク射撃セシムルノ必要アル
ハ自然ノ數ナリ是等ノ工事ヲ爲スハ近命大ニ必要ナルニ至レリ何ト
ナレバ防者ハ成ルベク接戰ヲ避ケ火力ノ發揚ヲ勉ムルモノナレバナ
リ而シテ今日火器ハ益々進歩セリテ以テ防者ノ望ハ益々満足スルニ
至レリ故ニ開闢ナル陣地ヲ控ユル陣地ノ攻撃ニ於テ晝間ニ於ケル接
近ハ遠方ヨリ既ニ大ナル損傷ヲ受ケ勢ヒ夜暗ヲ利用シテ小銃ノ良射
距離内ニ前進スルノ必要ヲ認ムルニ屢ナルニ至レリ此時ニ當リ土地
ニ現存セル地物アレハ之レヲ利用スルハ勿論ナレトモ若シ之レナキ
時ハ茲ニ新ニ掩護物ヲ作ル必要アリ又之レヲ作ル上ニ就テ考察スレ

古ノ戰法ハ古今同シク銃槍ノ一法アルノミ而シテ火器ノ射距離ハ古ニ
比シ今日ハ大ニ増加セシ故陣備射撃ハ敵ヨリ遠隔シテ之ヲ施シ得ベ
ク往昔ノ如ク敵ト咫尺ノ間ニ相對シテ工事ヲ爲ス如キコト無シ即チ
攻者ガ諸工事ヲ爲スハ夜間ニ行フ者ニシテ一定ノ時期ニ於テ全線同
時ニ開始スルヲ良トス敵若シ突出スルアレバ彼ハ有利ナル位置ヲ捨
テ、其欲セザル所ノ地點ニ於テ其欲セザル接戰ヲ爲サザルベカラズ
故ニ大突撃ハ防者ニ於テ企ツルコトナカラシ然レドモ攻者ハ又戒心
シテ此突撃ニ當ルノ準備アルヲ要ス故ニ火線ノ兵ハ土工器具ヲ携ヘ
其後ニ援隊豫備隊ヲ續行セシテ而シテ工事ヲ爲ス可キ地點ニ前進シ
以テ作線ス此間各兵ハ常ニ戰ヲ爲シ得ルノ用意ヲナシアルヲ要ス又
是等ノ兵ハ併セテ掩護物ヲ作ルモノナラズ

凡ノ工事ヲ計畫スルニハ能ク其順序ヲ顧慮シ翌朝未明ニハ掩護隊ヲ
砲兵陣地ヲ完成シ且ツ掩護ニ由テ掩護カレタル稠密ノ火線整頓シ
アルヲ要ス此外援隊ノ濠ヲ作り後方ニ交通路ヲ作ルハ土地ノ形狀ト
動作ノ關係ニ由ラスルモノニテ多クハ之ヲ設クルノ時間ナキモノト
ス火線ノ掩護隊ニハ如何ナル者ヲ用ユベキカハ明朝之レニ據テ勞ヲ
償ヒ得ル程度ニ爲スベシ通常ノ場合ニハ掩護ヲ以テ満足シ或ハ地形
ニ由テハ全ク火線ノ掩護隊ヲ作ラザルコトアリ然レトモ砲兵ノ肩墻
ハ必ラズ之ヲ設クルコト必要ナリ

以上述べタルハ強固術ヲ施シタル陣地ニ對シ攻者ノ爲スベキコトヲ
述べタルナリ攻者ノ築城ヲ應用スルハ之レノミナラズ又攻者タル
土地ヲ堅固ニ占領スル爲メ築城スルコト屢々アリ當時ハ逆襲ヲ以テ
防禦ノ唯一手段トシ又逆襲ヲ以テ屢々陣地ヲ取り返スコトアルヲ以

又隊伍紊亂スル故敵ノ反擊ニ對シ占領セル陣地ヲ維持スル爲メ支撐
點ヲ作ルベシアリアルモン曰ク工事ハ敗軍ノ際ニ尤モ其効用アリ即
チ堡壘ハ退却運動ノ限界トナル而シテ戰術上ノ連繫之ガ爲メニ成リ
立テ敵兵ノ尾撃モ此ニ至ツテ留マルヲ以テ凡テノ處置能ク行ハルレ
バ攻撃ニ轉ズルモ亦難カラズト然レシ都合ヨクハ行ヒ難シト雖ド
モ敵ノ企圖スル逆襲ニ對シテ工事ヲナスコトハ屢々之レアララン例令
ハ敵人主ナル陣地ヲ陷レザル前日暮ノ爲メ戰闘ノ中止シタル時ノ如
シ蓋シ目今火器進歩セルヲ以テ其威力モ大ナリ故ニ防者ハ必要點ヲ
攻者ニ占領セラレタル時ハ拂曉或ハ夜間ニ於テ逆襲ヲ以テ取返サン
トスルガ常ナル故之レニ應ジ得ル爲メ攻者タル地點ニ築城術ヲナ
スル尤モ必要ナルコトナリ此際ニ於ケル工事ハ極メテ軍簡ニシテ土

製堡壘ナレバ掩護住民地ナレバ若干ノ家屋圍堵ニ防禦編成森林ナレバ鹿柴位ニア可ナリメツツノ役佛兵ハセルビニ一ヲ占領シタルガ此ニ普兵ノ一部残りアリ後方ノ普兵之レヲ助ケ佛砲ニ再ビセルビニ一ヲ取り返シタリ若シ佛兵ニシテ此ニ工事ヲ成シ置ケバ此ノ逆襲ノ取り返シニハ逢ハザリシナラシ

情 況

第一師團ハ九月五日夜愛名村ヨリ舟子村西北方ニ亘ル殊ニ堅固ナル防禦工事ヲ施シ敵ヲ待ツ

九月六日前面ノ敵ハ若干ノ戰團ヲ挑ミシノミニテ更ニ決戰攻撃ヲナシ此日正午頃ヨリ我第一軍ハ續々國分用田藤澤ノ線ニ進出シ敵ノ

後陣圍攻モ亦次第伊勢原附近ヨリ大磯附近ニ亘ル線上ニ到着集合シアルモノ、如シ而シテ戸田ヨリ下流馬入附近ニ至ル間馬入川ノ西岸ニハ互ニ彼我ノ監視歩騎兵アリテ相對向ス

右ノ情況ヨリ以後ハ軍ノ作戰ニ關スルヲ以テ此作戰ハ他日篇ナ更ヘテ述ブル所アルベシ

基本戰術摘要解義第五篇終

明治三十三年十一月十日發行

(正價金五拾錢)

著者

雲外居士

發行者

淺草區新福井町一番地
二階堂敬勝

印刷者

京橋區五郎兵衛町二十一番地
小林又七

印刷所

陸軍省御構内
小林出張所

發賣所

麹町區隼町二十一番地
小林又七支店
(電話番町百九十二番)

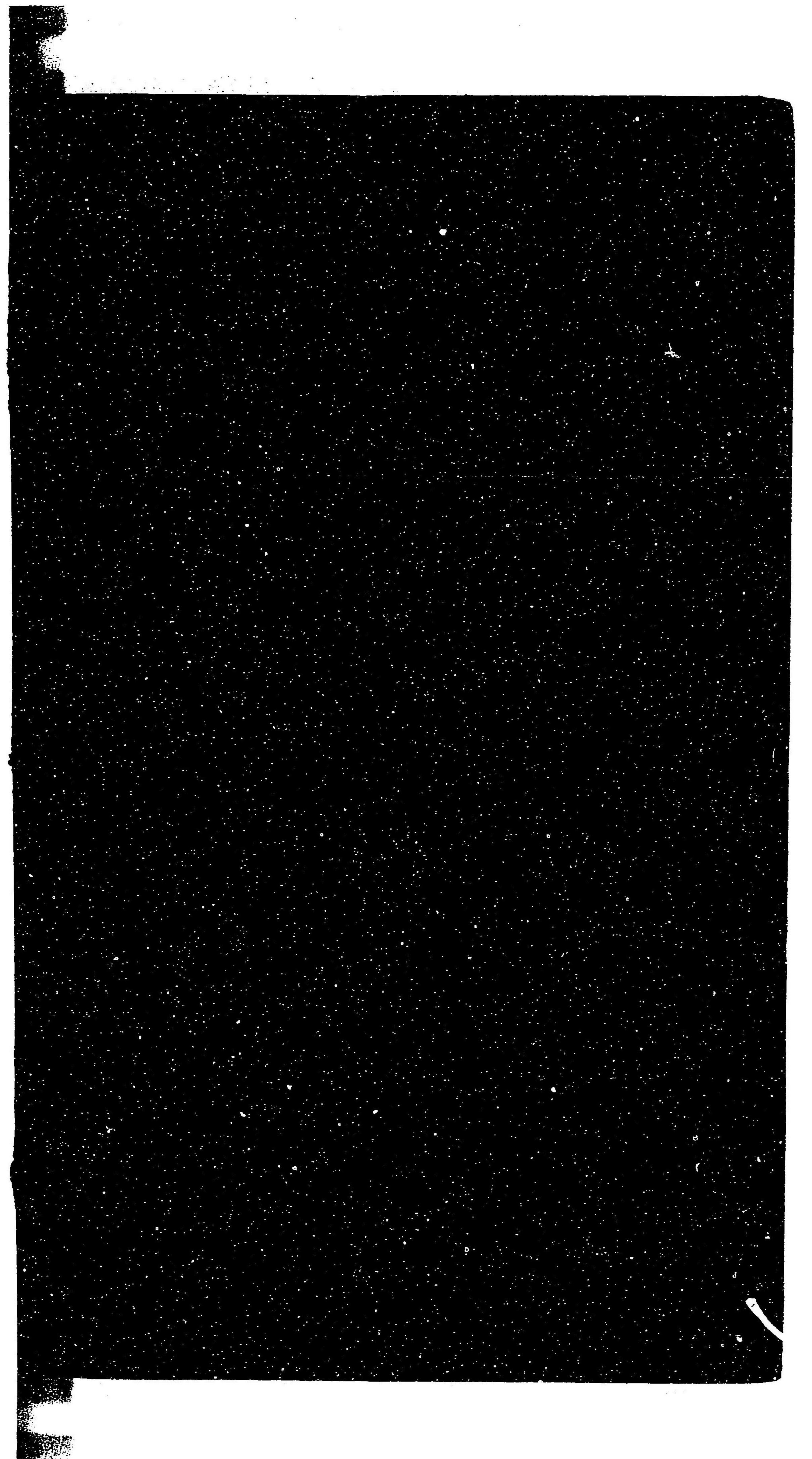
同

仙臺市南光院町四番地
小林又七出張店

85
55

85

55



85
55

